

第16回 U14 地区選抜対抗バスケットボール大会 総評

千葉県バスケットボール協会が主催する、第16回U14地区選抜対抗バスケットボール大会が、12月3日、9日、10日に富津市総合社会体育館をメイン会場に行われた。予選リーグでは、千葉県新人大会のベスト4の中学校を擁する地区がシード地区としてリーグを組んでいる。女子は、新人大会で市川・浦安地区から3チームがベスト4に残ったため、2つのリーグはシード地区なしで組まれている。

本大会は、毎年各リーグとも熱戦が繰り広げられ、千葉県新人大会では見る事ができなかった、すばらしい選手たちの活躍が光る大会である。また、各地区の競技力の向上、有望選手の発掘、千葉県のバスケットボールのすそ野を広げるなど、重要な役割を果たす大会となっている。

また、JBAの提案している「15歳以下でのマンツーマンディフェンスの推進」に対応するために、最終日はコミッショナーを全試合に配置し、千葉県として、よりマンツーマンディフェンス強化を図っている。

予選リーグでは、県大会で活躍した選手のプレーが光るシード地区に加え、そのシード地区に迫る勢いでチーム力を強化してきた地区の活躍が見られた。特に女子の印旛地区はシードチームを破っての決勝トーナメント進出となった。

男子決勝は、2年連続優勝を目指す印旛地区と、2年ぶりの優勝を狙う八千代地区との対戦となった。第1Q、印旛地区は高い確率を誇るアウトサイドシュートで着実に加点。対する八千代地区も、高さや速さを兼ね備えたフォワード陣の1on1と、力強いインサイドで対抗。一進一退の攻防となる。第2Q、印旛地区の勢いが増し、ディフェンスリバウンドから速い展開のオフェンスで次々と得点。八千代地区を引き離しにかかる。八千代地区も、鋭いドライブや粘り強いリバウンドで応戦。印旛地区リードで迎えた後半。印旛地区のアウトサイドシュートが随所でよく決まる。八千代地区も、激しいディフェンスからのオフェンスで対抗するも、その差を縮めることができず試合終了。印旛地区が2連覇を達成した。

女子決勝戦は、3年ぶりの優勝を狙う市川・浦安地区と、3年連続決勝戦で敗れ、悲願達成に燃えている船橋地区との対戦となった。市川・浦安地区は、序盤から高さや速さを生かしたオフェンスで次々と得点。船橋地区を突き放す勢いで攻撃。対する船橋地区も、長身選手たちの活躍が光り、市川・浦安地区を追いかける展開。後半に入り、船橋地区がスティールからの速攻と1on1で次々と得点を重ね、3Q残り3分でついに逆転。市川・浦安地区もアウトサイドシュートを沈め、2点差で最終Qへ。第4Q、船橋地区は、果敢に1on1で得点を重ねる。市川・浦安地区も、粘り強いディフェンスからスティール、速攻で得点し食い下がる。一進一退の攻防が続くも、インサイド、アウトサイドとバランス良くオフェンスを展開した船橋地区が逃げ切り、優勝を決めた。

男子	
優勝	印旛地区
準優勝	八千代地区
第3位	松戸地区
第4位	船橋地区

男子優勝 印旛地区 (2年連続5回目)

コーチ	白井 駿佑	白井	
アシスタントコーチ	清水 剛	四街道	
マネージャー	駒野 和輝	八街	
No.	選手氏名	学年	学校名
4	塚本 智裕	2	成田西
5	崎元 駿	2	吾妻
6	木村 海斗	2	八街北
7	今井 悠翔	2	八街
8	河崎 歩夢	2	成田西
9	石井 悠斗	2	白井
10	佐藤 成	2	富里南
11	塚本 尊久	2	成田西
12	セグラダイキ	2	上志津
13	諏訪 寿	2	富里南
14	木曾 樹	2	富里
15	大澤 奏太	1	印旛

女子	
優勝	船橋地区
準優勝	市川・浦安地区
第3位	印旛地区
第4位	市原地区

女子優勝 船橋地区 (4年ぶり6回目)

コーチ	君塚 佳祐	宮本	
アシスタントコーチ	岩波 愛	七林	
マネージャー	高橋 英子	三田	
No.	選手氏名	学年	学校名
4	鈴木 香乃	2	宮本
5	西ファトリマ七南	2	三田
6	豊田 春香	2	大穴
7	石黒 帆乃果	2	海神
8	椎名 瞳	2	船橋
9	松本 仁菜	2	宮本
10	寺門 花菜	2	宮本
11	石田 美羽	2	宮本
12	本間 涼	2	海神
13	田平 真弥	2	七林
14	須藤 真衣	2	七林
15	藤島 つづみ	1	大穴